

揺れた 崩れた でも頑張った

— 私たちの台湾大地震 —

台中日本人会編



問い合わせ先
台中縣日僑学校（台中日本人学校）
中華民國台灣省台中縣大雅鄉秀山村平和南路 33 号
TEL (886-4)2567-2079 FAX (886-4)2567-2085
海外子女教育振興財団
〒105 東京都港区虎の門 1-21-17
TEL (03)3580-2521 FAX (03)3503-7238

揺れた 崩れた でも頑張った —私たちの台湾大地震—

2000年3月31日 第1版第1刷発行

著者・発行者 / 台中日本人会(日僑協会台中支部)
台湾・台中縣潭子鄉建國路18號 台灣佳能公司内
電話 886-4-532-2123

装丁／ノマド・インターナショナル
印刷／佳基印刷

領価 1,950円（税込み）
2000© Printed in Repubric of China

揺れた 崩れた でも頑張った

— 私たちの台湾大地震 —

発刊によせて

昨年九月二十一日に発生した集集大地震は、我々在留邦人にとつても大変貴重な経験となりました。特に日僑協会台中支部の管内の皆様方は、震源地に近かつたことから大きな被害を受けられ、東勢鎮では在留邦人一名の尊い犠牲があつたほか、台中日本人学校が全壊するなど想像を絶する体験をなさつたわけです。あらためてお見舞いを申し上げます。

未だ地震の爪あととは随所に残つてはいますが、ともかくもこれを乗り越えて、以前の状態に戻りつつあるように見受けられます。また、台中日本人学校につきましても、関係者の努力によつて予想より早く再建の目処がたつたのは本当に嬉しいことです。

今回の地震では、日本からもいち早く官民をあげての支援が行われたことはご承知の通りですが、これに対し台湾の方々が李総統をはじめ個々の市民にいたるまで、心から感謝の意を表してくださいました。私自身、行く先々で面恥ずかしくなるくらいに感謝され、この不幸な出来事をきっかけに日本に対するプラスイメージが残つたことを実感いたしました。

我々はこうした日本或いは日本人にとつての大きな財産を大切に育て、日台間の関係をよりよいものとするよう努力することが、災い転じて福となすということであると思います。特に皆様方は、台湾の方々と同じ被災体験をされており、日台間の心の絆を築きやすいといえます。その意味

で、皆様方が今回の地震の体験を他の日本人に伝えていくことは、日台関係の将来にとっても意味があり、今回ここに文集として記録に残すことは、後々のために極めて大きな意義を持つと思います。

二〇〇〇年二月

(財) 交流協会台北事務所長 山下 新太郎

まえがき

あの台湾大震災から、既に半年がたとうとしています。

震源地では、今尚復旧活動が続き、仮設住宅で苦勞されている方々が多くおられますが、大都市のなかで最も震源近くに位置する台中は、われわれ自身でも驚くほどの速さで復旧が進み、活気が戻り、どこに地震があつたのだらうと思われるほです。

現在では、現地社会も日本人社会も従前の生活をほぼ取り戻したと言えます。落ち着きを取り戻した今、当時を振り返ってみたいと思います。

あの時大多数の日本人は、みずからの私利私欲を離れ、日本人全体、学校、企業、台湾の地域社会の危機に立ち向かつたと言えるでしょう。

皆を駆り立て、突き動かしたのは何であろうかと、ふと思うときがあります。その原動力は、現代の日本人にかつての日本人が強く持っていた使命感、責任感、正義感の血が騒ぎ、本能がよみがえつたものなのでしょうか。

台湾という親日的風土のなかでこのような事態に遭遇した事は、一面では不幸中の幸い、この見方も出来るかも知れません。何をしてこのように最小限の影響で収まりせしめたか、その回答はまだありませんが、今後の日本人のあり方、台湾との関わり方で歴史が証明するかも知れません。

今回、台中に在住し大震災に遭遇した日本人が、その時どのような状況にあり、何を考え、どう

処したか。小学校の一年生から学校、婦人会、企業の責任者に至るまでの体験を記録を是非残したい。その声が日本人会の中で澎湃^{ほうはい}として湧き起こり、今回の出版につながりました。

昨今、国際化の波に乗り日本人の海外進出が益々盛んになり、現地において日本人及び日本社会が戦争、騒乱、災害等の危機に巻き込まれる事も、さほどまれではなくなっています。また日本そのものも、必ずやいつかは地震等の大規模災害に見舞われるであります。我々の経験が、今後の危機管理の一助になれば幸いです。

今回、台湾の被災地に日本から救援隊、各種ボランティア団体が訪れ、それぞれの義援金等の支援活動も幅広く行われ、台湾各地から深い感謝の言葉が聞こえています。

また破壊された日本人学校は、一九九九年十月七日李総統の視察を受け、以降日本の政官民、台湾の各方面の支援により異例の速さで二〇〇〇年末に新たな地に本校舎再建の目処がつかしました。これらに象徴されるように、この不幸な地震を乗り越えて日本と台湾との親密感がより深まったのは、紛れもない事実であります。この事もここに記録としてとどめておきたいと思います。

この本をまとめるにあたり多大な尽力を頂いた多くの方々に深く感謝し、まえがきとします。

二〇〇〇年三月

日僑協会台中支部長（台中日本人会会長）・台中日本人学校運営委員長 市川 捷二

目次

発刊によせて

2

まえがき

4

写真でみる台湾大地震

8

第一部 9・21台湾大地震

15

地震の概要

16

邦人救援活動

23

日系企業の被害状況

27

第二部 台中日本人奮闘記

35

台湾大地震・台中日本人奮闘記

37

日僑協会台中支部組織図

緊急支部運営委員会議事録

ビラ・日本人被災者の皆さんへ

第三部 私たちの台湾大地震(1) 学校編

台中日本人学校 小学部児童

同 中学部生徒

同 教職員

同 P T A 会員

第四部 私たちの台湾大地震(2) 一般編

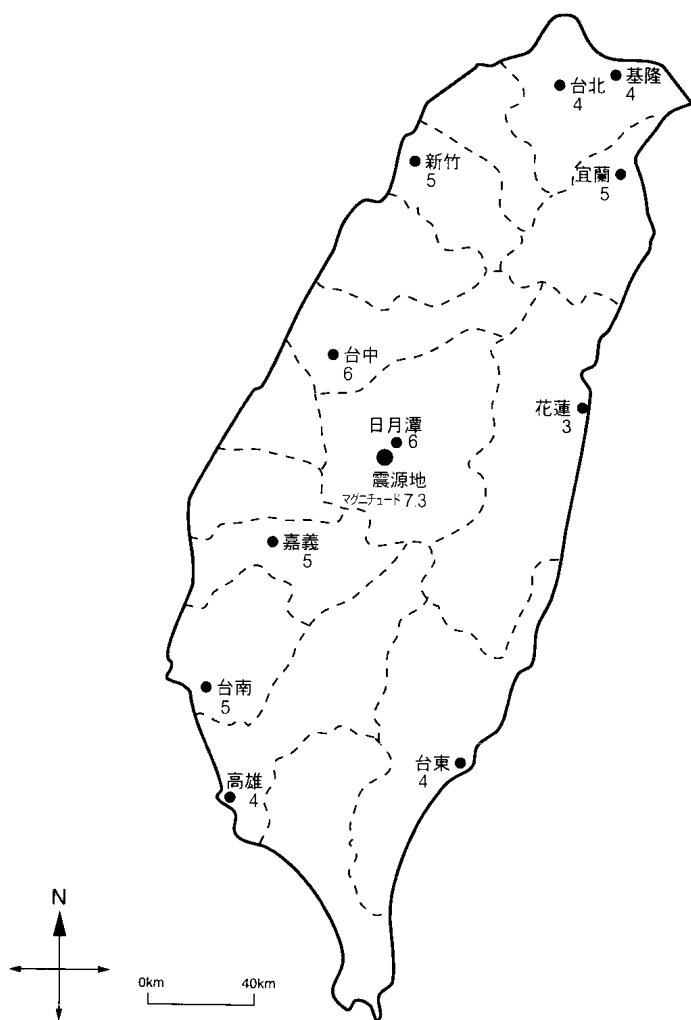
台中日本人会 法人部会員

同 婦人部会員

あとがき

422	401	318	317	308	224	210	116	115	92	90
-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	----	----

9・21 大地震
台湾各地の震度





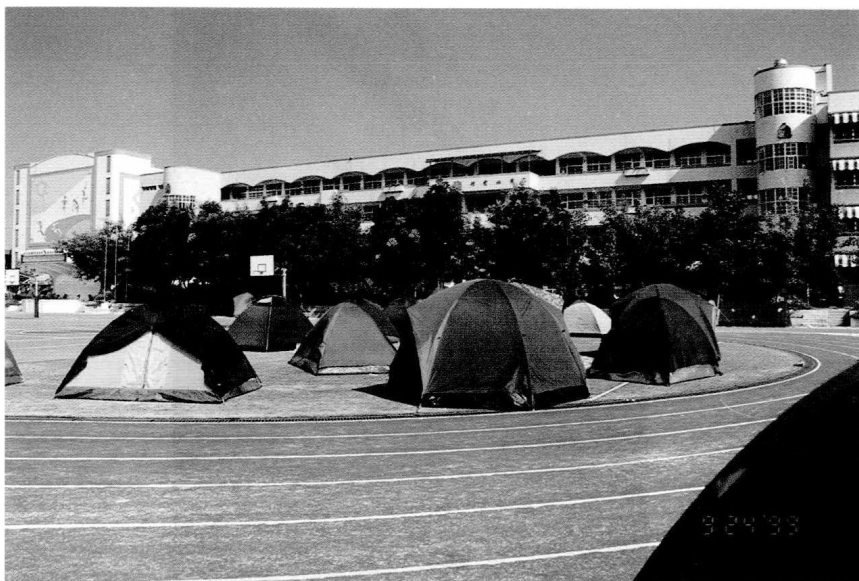
この建物は耐震建築といわれていたが・・・



学校の校庭に出現した隆起（霧峰地区光復國中）



昼間でなかったのが不幸中の
幸이었다 (台中日本人学校 1 階教室)



学校の運動場は絶好の避難場所（潭子地区）



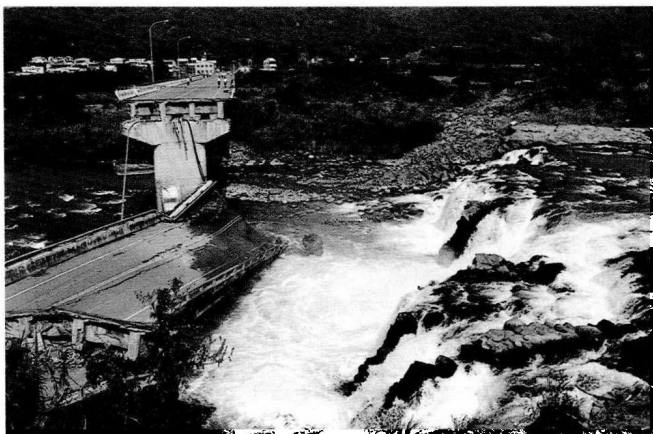
すさまじく破壊された石岡ダム



1階部分が完全につぶれたマンション（東勢地区）



大きく傾いた建て物。
いつ倒壊するかわからない(東勢地区)



大きく崩れた碑豊橋（石岡地区）



全壊した寺院。なぜか大仏さまだけは無傷で立っていた（霧峰地区）



被災状況視察に訪れた李総統を出迎える
台中日本人学校の子供たち



新しい用地に完成した台中日本人学校臨時プレハブ校舎

第一部

9
·
2
1
台湾大地震